

【問合せ先】

(本プロジェクト・AI 技術・大学の研究に関すること)

関東学院大学 広報課 日光 萌花 045-786-7049

(ドローンや高校での取り組みに関すること)

神奈川県立海洋科学高等学校 原田 貴博、竹内 竜登 046-856-3128

(取り締まりに関すること)

横須賀海上保安部 警備救難課 小笠原 健太 046-862-0118

(水産振興・市政に関すること)

横須賀市 経済部農水産業振興課 杉山 裕二 046-822-8295

ドローンと AI で密漁に挑む!!

～産学官連携による次世代型密漁対策の公開実証実験第 2 弾～

(関東学院大学・神奈川県立海洋科学高等学校・横須賀海上保安部・横須賀市が連携)

横須賀市の沿岸部では、アワビやサザエなどの密漁が後を絶たず、漁業関係者に深刻な被害をもたらしており、水産資源の保護が喫緊の課題となっています。一方で、広大な海岸線や夜間における監視・取締りは、人によるパトロールだけでは限界があります。

そこで、関東学院大学（情報学部 元木 誠 教授）が開発を目指しているドローンと AI（人工知能）技術を活用した密漁監視・取締りシステムに対し、神奈川県立海洋科学高等学校、横須賀海上保安部及び横須賀市が全面的に協力し、横断的な産学官連携によるシステム構築に向けた実証実験を昨年から進めてきました。

本プロジェクトは、ドローンの機動力と AI の高度な画像解析能力を組み合わせることで、監視体制を効率化・高度化し、密漁の抑止力強化を目指すものです。将来的には、ドローンが密漁者を自動で検知し、関係機関へ即時通報するシステムの社会実装を目標としております。

【これまでの経緯と今回の実証実験における狙い】

昨年は AI の学習データを収集するため、海上保安官が密漁者役となり、岩場に隠れる、海に潜る、採捕物を袋に入れるといった典型的な密漁行為を海上で再現し、こうした様子をドローンで撮影しました。また、撮影した画像により学習させた AI を使用し、実際に密漁多発海域を飛行させ、システムの有効性を検証しました。

その後、関東学院大学では、この検証で得られたデータを用いて、約 1 年をかけて AI の学習を進化させ、更なる画像判別の高精度化に取り組んできました。今年はこの AI による 2 度目のシステム検証を実施し、システムの有効性を再度検証します。

【今年の実証実験の概要】

AI システムを搭載したドローンを、実際の密漁多発海域で飛行させ、システムの有効性を検証します。

時期：2026 年 8 月上旬（予定）

場所：横須賀市内の密漁多発地帯（予定）

内容：AI 搭載ドローンを密漁多発海域で自律航行させます。密漁が疑われる人物を AI が自動で検知できるか、その精度と実用性を評価・検証します。

【報道関係者の皆様へ：取材のご案内】

実証実験の様子を報道関係者の皆様に公開いたします。御多忙中とは存じますが、万障お繰り合わせの上、ご取材くださいますようお願い申し上げます。

なお、本プロジェクトは横須賀海上保安部による密漁取締りも兼ねるものであり、その秘匿性を確保する観点から、実施日時及び場所については、個別にご案内させていただきたいと考えております。誠にお手数ですが、取材についてご検討いただける報道関係者におかれましては、横須賀海上保安部（連絡先：本紙冒頭参照）へご連絡ください。

取材内容：プロジェクト概要説明

ドローンの飛行及び AI による画像分析の状況

海上保安官による密漁取締りの状況

各機関担当者（関東学院大学、神奈川県海洋科学高等学校、横須賀海上保安部、横須賀市）への囲み取材

お申込み方法：取材を希望される社は、実証実験の実施日及び場所について横須賀海上保安部（連絡先：本紙冒頭参照）へご確認の上、別添様式へ必要事項を記入し、7月30日（木）までに横須賀海上保安部へメール送付 jcg3-yokosuka-8z8w@ki.mlit.go.jp）をお願いいたします。なお、駐車スペースは確保しておりますが、各社からのお申込み状況を踏まえ、台数を制限させていただく場合がございますので、ご了承ください。

横須賀海上保安部警備救難課 行

「ドローンを活用した実証実験について」

取材日：令和8年8月上旬

取材申込書

社名	
氏名	
同行者	
車両台数	

代表者 連絡先 (電話番号)	
----------------------	--

【送付先】

横須賀海上保安部警備救難課長

メールアドレス：jcg3-yokosuka-8z8w@ki.mlit.go.jp